図　形　と　文　字

大阪大学工学部機械工学科　堀　川　明

〔1〕　〝太初(はじめ)にロゴスありき〟とはよく知られた言葉であるが，この意味の一つは〝文化の源泉は言葉である〟ということであろう．すなわち〝文化伝承のメディアは言葉である〟とも受けとれる．さらに文字の発明は，言葉に代る，保存可能なメディアとして，文化形成に大きな役割りを果たして来たことは間違いない．

ところが，……である．文化継承のための文字に代るメディアとして（絵，図，写真，イラスト，パターンなどの）図形ないし記号の利用がいろんな分野で非常な勢いで増加しつつある．この傾向はさらに拡大しそうであり，今後はかなりの方面で言葉や文字に取って代わり，図形とか記号が採用されて行くのではないかと思われる．

〔2〕　例えばマンガ専門誌を見ると，その中味は絵ばかりで，文字らしいものをほとんど見かけない．この種のマンガはわかり難いと思っていたが〝マンガは読むものではない，見るものだ，テレビを見るつもりで画面を見流せばよい〟と言うことであった．そのつもりで見流すと，なるほどマンガは見るものである．

ニュースや出来事の多くは新聞より早く，テレビで画面として，より真実味をもって報道される．衣類には〝アイロンをかけるな〟の代りにアイロンの絵と赤い×印とが重ねて書いてある．文字や言葉によって情報を伝えるのではなく，絵により，より直観的に意思が伝えられている．自動車の中の各種のツマミの類，計器盤上のツマミ類にも絵表示が増えてきた．ランプの絵のあるツマミを引くとランプが点く．

学術書でも，昔は絵とか図の少ないことを誇っていたような本があった．いまは理解を助けるために，できるだけ図で説明しようとしている．論文でも工学系のものでは，文章と同じくらい図面に神経を使ってしかるべきであろう．機械などの設計図は，設計者から製作者への極めて便利な情報伝達のメディアであり，だから製図作法をやかましく言うのである．

いまの世の中，読み，書き，そろばんの必要性が段々と薄らいできたみたいである．その代り情報や意思の伝達に絵や図が随所に使用されている．

道路標識における矢印や×印，赤・青・黄の

色分けなどは，できるだけ速く運転者に必要な情報を伝えるために考えられた図形である．道路標識が文字ばかりで説明されていたら，このスピード時代，事故はもっと多いかも知れない

日常生活の中で，身のまわりにも絵表示による意思ないし情報の伝達はいっぱいある．

〔3〕　どうしてこのような傾向が出てきたのだろうか．いまの時代，いろんな意味を含めて，情報の量は飛躍的に増大しつつある．またその伝達速度も極めて大きい．この膨大な情報を，短時間に能率よく理解し処理するためには情報伝達のメディアとしては，できるだけ生に近く，理解が直接的で，短時間に判断され得るものが有利である．言葉とか文字という手段は一度頭の中を通って判断されなければならないために，場合によっては有利でない．

図形とか記号による伝達手段の特ちょうは，そのスピード性と国際共通性ということであろうか．言語の通じない土地で「手ぶり身ぶり」が意思疎通の有力な手段であるが，あれはまさに図形による情報の伝達である．情報過多の時代に，伝達のメディアとして図形の重要さが大きくなってくるのは当然であろう．図形は翻訳のわずらわしさもない万国共通のものが多い．

〝目は口ほどに物を言い〟というが〝図は文字ほどに物を言い〟ともいえそうである．

図形による意思や情報の伝達は，今後ますます増えるにちがいない．そして図形なり記号が文字にある程度代って行くのではなかろうか．いまのうちに意思表示のための図形の国際的統一を考えておいた方がよい．将来は図形あるいは記号で，異国の人々が互に意思を通じ合える日が来ると楽しい．